

# 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 総合ヘルスプロモーション科学講座 ヘルスプロモーション・システム科学研究室

研究室紹介 236

## 当研究室の沿革と特徴

大阪大学医学部保健学科は大阪大学吹田キャンパスに位置し、看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻と3つの専攻からなり、医学部医学科の多くの研究室や附属病院、関連病院・研究所などと連携して、主に医療専門職の教育と研究に取り組んでいます。大阪大学医学部の源流は江戸時代の緒方洪庵が開設した適塾に遡ることは有名ですが、看護教育の歴史も非常に古く、明治維新直後に大阪医学所が開設されて助産師教育が始まり、明治31年には附属看護婦養成所が開設されています。戦後まもなく、大阪大学看護学校が開学され、国立の医療系短期大学としては全国で初めてとなる大阪大学医療技術短期大学部が開学し、これが現在の保健学科の前身にあたります。平成5年に4年制過程の大阪大学医学部保健学科が創設され、平成10年に大学院博士前期（修士）課程、平成12年からは博士後期（博士）過程が設置され、これまで3,000名以上の学士と1,000名以上の大学院卒業生を世に送り出しており、180年近い歴史をもつ本学科はわが国の保健医療大学の先駆者としてこの領域を牽引してきたといえます。私共の研究室の初代教授は保健学科開設時に老年病医学講座から赴任された三上洋教授で、平成25年から私が同医学科の老年・腎臓内科（現：老年・総合内科）より赴任して教授を引き継いでおります。

## 教育

私共の研究室は地域看護学領域に属し、専門科目として公衆衛生看護学、在宅看護学を担当しています。学部教育では、保健師や訪問看護師の育成のために、公衆衛生学、予防医学、地域医療学、在宅医療学、医療保険や介護保険などの医療サービス・福祉制度に加えて、私が看護学専攻で唯一の内科系医師であるため、生理学などの基礎医学、内科系疾患全般、老年医学などと広く臨床医学科目を担当しています。さらに大学院では、ヘルスプロモーションをテーマにしたいくつかの講義や演習を担当し、医療専門職をバックグラウンドとする大学院生に対してリサーチマインドの醸成をおこない、主に健康長寿の延伸に繋がる研究の指導をおこなっております。

## 研究

研究室の掲げる大きなテーマは「健康寿命の延伸」に資する研究です。私が老年内科に在籍した時代から高齢者の健康長寿の要因探求に注力してきました。これには医学的側面の検討のみでは答えが得られないと考え、大阪大学の中で高齢者の研究をおこなっている他学部の研究者、老年心理を専門にしている人間科学研究科 権藤恭之先生、補綴学が専門の歯学研究科 池邊一典先生と共同で2010年より70、80、90、100歳以上の地域在住高齢者を研究対象とした健康長寿（Septuagenarians, Octogenarians, Nonagenarians Investigation with Centenarians: SONIC）研究をおこなっています。本研究は東京都健康長寿医療センター研究所ならびに慶應大学百寿総合研究センターとも共同で、関西、東京で延べ約2,500名の方を対象に進めている研究です。すでに本研究は各年代3年後の追跡調査のデータ収集も終了し、これまで発表した断面的解析結果に加えて、縦断解析により、因果関係を考慮した成果を創出していけることを期待しております。

また、われわれは老年内科出身で大阪・兵庫で在宅支援診療所を開設されているOBの先生方の多大なご協力により、「在宅医療におけるエビデンス確立のためのレジストリー（OHCARE）研究」を昨年開始しております。現在、在宅にて訪問診療を受けている在宅療養者に関する様々



写真◇平成28年度 神出研究室  
前列中央が筆者、右隣が樺山助教

な情報をカルテや種々の関連書類、主治医、看護師より聴取した内容を含む多項目にわたるデータベースを構築し、約半年毎の追跡情報も集めていくことにより、前向きに在宅医療における疾病管理、栄養、身体機能、認知機能、介護者ストレス、急変・入院、看取りなど種々の課題について量的な解析で関連要因を検討し、その改善策や介入ターゲットを明らかにしていく研究に取り組んでおります。本研究によって現在のところ科学的エビデンスの少ない在宅医療の領域におけるエビデンス創出に寄与できればと考えております。

さらに、長らく行政で保健師をしていた樺山舞助教が中心となり、行政が収集した介護予防基本チェックリストの膨大なデータを解析し、将来の介護認定への関連要因の分析などをおこなったり、社会資源（social capital）と健康の関連性を明らかにすることにより、これからの地域包括ケアシステムの構築に有用な情報を発信すべく研究を進めています。

加えて私は荻原俊男先生、楽木宏実先生のご指導の下、長らく高血圧の研究をおこなってまいりました。現在も高血圧の適切な管理が健康寿命の延伸に繋がると考え、血圧関連の研究を継続しています。現在、SONIC研究において超高齢者の血圧管理、老化・長寿と血圧関連の遺伝素因、認知機能やフレイルと血圧の関連性など複数の検討を進めております。また樺山助教と共に保健指導のような non-pharmacological な介入で、高血圧など生活習慣病のより効率的で効果的な改善を目指した方法の開発に取り組んでいます。高血圧を中心とした生活習慣病の管理は健康寿命延伸に欠かせないと考えており、エビデンスに基づいたQOLに十分に配慮した、新たな life style modification の方策を提言していきたいと考えています。

## おわりに

われわれは高齢者医療に携わる医療者の立場から、健康寿命延伸に資する研究をおこない、またそのようなりサーチマインドをもった医療専門職を育成することで、健康日本21が掲げる「すべての国民が共に支え合い、健康で幸せに暮らせる社会」の実現に貢献していきたいと考えていますので、今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。もし当研究室の詳細をお知りになりたいということでしたら研究室ホームページ <http://sahswww.med.osaka-u.ac.jp/~comger/kamide/> をご覧ください。また御質問などございましたら [kamide@sahs.med.osaka-u.ac.jp](mailto:kamide@sahs.med.osaka-u.ac.jp) に気軽に御連絡を頂ければ幸いです。

<神出 計>